

水稻生育情報 (No.5)

令和7年7月18日
県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)

【気象と生育の概況】

本年5月第1半旬から7月第2半旬までの気象は、日平均気温が平年より **1.3℃高く**、日照時間が平年比 **140%**で推移しました。特に、6月第4半旬から7月第2半旬では、日平均気温が平年より **3.9℃高く**、日照時間が平年比 **163%**で推移しました。

7月11日現在の水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況は、草丈は**高く**、茎数は**やや少ない～平年並**、葉色は**平年並**です。早生品種を中心に生育が進んでおり、4月下旬移植の「あきたこまち」では出穂期（4～5割の茎が出穂した日）を迎えています。

【今後の栽培管理のポイント】

表1. 水稻定点調査（7月11日現在：コシヒカリ）

調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉色板) (SPAD値)		幼穂長 (mm)
土浦市	5月5日	60	90.1	416	3.2	29.1	29.0
飯田	(5月5日)	60	(75.4)	(423)	(3.4)	(29.3)	(8.4)
石岡市	5月15日	50	84.6	386	2.8	28.9	9.1
柿岡	(5月15日)	50	(73.9)	(435)	(3.5)	(29.4)	(3.6)

※（ ）内は平成27年～令和6年の10か年平均値

1 水管理

出穂期30日後（5月上旬移植で8月末まで）までは間断かん水を続け、根に酸素と水分を与え、粒を大きくします。

2 カメムシ類対策

カメムシ類が出穂期～糊熟期にかけて穂を吸汁すると、不稔粒や斑点米の発生につながります。**本年は7月上旬から水田内で発生が確認されており、例年よりも早期から、多数の発生が確認されているため、意識して防除を行います。**特に、出穂が他の品種と差のある早生品種や晩生品種では無防除時の被害が大きくなるため注意が必要です。

※茨城県病害虫防除所から斑点米カメムシ類についての病害虫発生予察注意報が出ておりますので、そちらも併せてご覧ください。

●除草

出穂前は畦畔等のイネ科雑草に潜んでいるので、除草により生息密度を減らします。なお、出穂直前の除草はカメムシを水田内に追い込む事になるので、除草は出穂2週間前までにを行います。

●農薬による防除

①**不稔・しいなの発生防止を目的（成虫が対象）とした防除適期：出穂期**

この時期に成虫を多く確認した場合は、防除を実施します。

②**斑点米の防止を目的（幼虫が対象）とした防除適期：出穂後8～10日頃（乳熟期）**

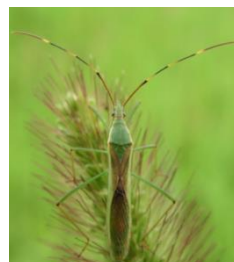
乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生が増えることから、この時期に防除することが重要です。



イネカメムシ



ホソハリカメムシ



クモハリカメムシ

写真の出版：
茨城県病害虫
防除所 HP

令和7年の気象の推移

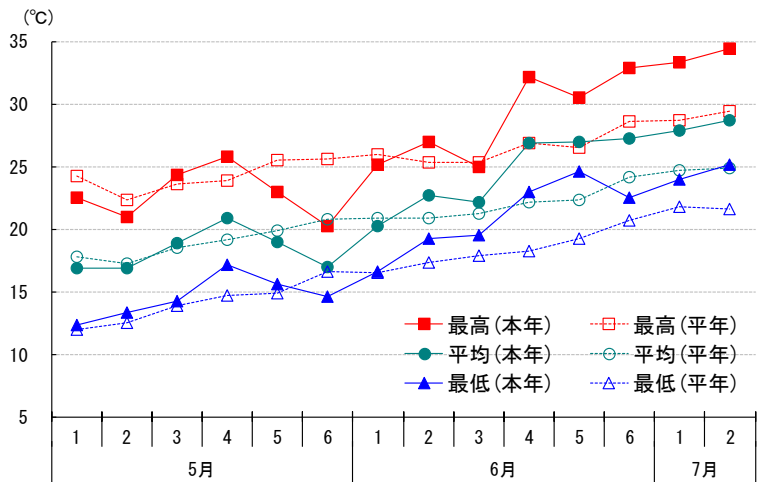


図1 半旬別気温の推移（土浦市）

注）平年値：平成27年～令和6年の10年間の平均値
アメダス土浦観測所データより作成

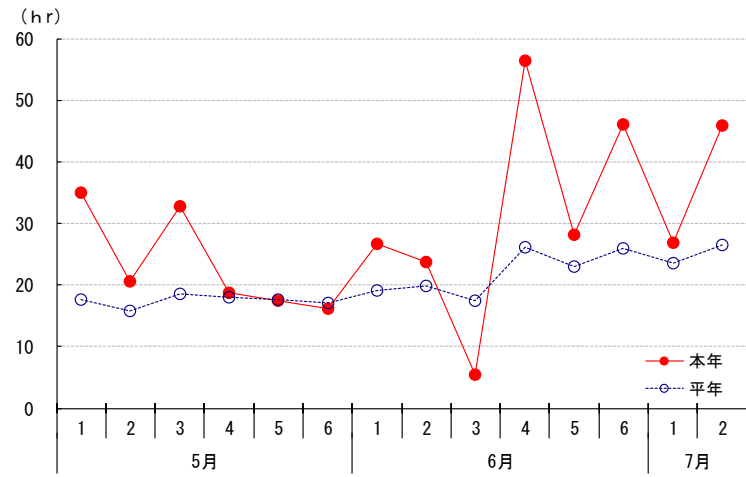


図2 半旬別日照時間の推移（土浦市）

注）平年値：平成27年～令和6年の10年間の平均値
アメダス土浦龍観測所データより作成

令和7年の生育経過グラフ

